大久保玉川大学名誉教授が講演

町田市の現状とこれから

町田市経営診断協会（理事長＝太細貞治氏）主催セミナー「町田の未来を考える一二〇分」が、二月十七日午後六時から、町田商工会議所二階会議室において開催された。当日は二部構成で、第一部「商都まちだの二〇年とこれから」（講師＝本田卓也町田市経営診断協会理事）、第二部「町田市の現状とこれから～町田の魅力と課題」（講師＝大久保英敏玉川大学工学部名誉教授）を講演。大久保氏は町田市が昨年策定した、「町田未来づくりビジョン2040」の策定審議会会長を務められている。

第二部の概要は以下の通り。

「最初に二〇一一年以降の日本をお浚いしたいと思います。東日本大震災で社会状況が激変しました。この時に計画停電がありました。震災前の十年は、二酸化炭素削減―カーボンニュートラルが声高に叫ばれ、『オール電化』が日本社会に入り込もうとしていました。しかし、今はすっかり消えてしまいました。

原発事故で翌年、日本の原子力発電所の発電量はゼロになりました。

二〇一六年暮れ、糸魚川市で大規模火災発生。二〇一八年、大阪府北部地震、北海道胆振苫東地震発災。二〇一九年には、二つの大きな台風（台風15号と台風19号）が東日本を襲います。台風が大きくなるのは、地球の熱エネルギーを溜め込むのは海表なので、温暖化が進めば当然の事です。

二〇二〇年には新型コロナウイルスが大流行。

このように、歴史が変わる大きな出来事が短期間に起きている。考えようによっては、今ピンチならば、それをチャンスに切り替える大きな曲がり角かも知れません。では、町田市では、どう変えていくのか。

『町田未来づくりビジョン2040』は以下の三つで構成されます。①2040なりたい未来。②まちづくり基本目標。③経営基本方針。

まず現状分析から出発しました。1ここでの成長がカタチになるまち（主役が子供）。2わたしの〝ココチよさ〟がかなうまち。3誰もがホッとできるまち。多様な価値を尊重し合うまち。4みんなの〝なりたい〟がかなうまち。町田らしい公共サービスを展開していく。主役は町田市民です。活気のあるまち、発展していくまちは、市民が参加するまちです。

まちづくり基本目標は赤ちゃんに選ばれる町→未来を生きる力を育み合う町→自分らしい場所・時間を持てる町→いくつになっても自分の楽しみが見つかる町→人生の豊かさを実感できる町。

かつては、ものづくりが叫ばれましたが、今はものがたりです。人づくりから心づくりの時代へシフトしています。

経営基本方針は、1共創で新たな価値を創造する。2対話を通して市役所能力を高める。3次世代につなぐ財政基盤を確立する、の3点です。

町田市の現状は、商圏人口二〇〇万人以上。東京のベッドタウン。一九五八年二月市制施行時の人口は六万人。昨年十月一日現在、四三万三、〇三二人で、全国38番目の人口。当面の目標は、四〇万人都市の維持です。

交通の結節点。JR横浜線、京王相模原線、小田急小田原線、東急田園都市線が通っていますが、市内移動の交通手段はバスに頼っています。

次に、子供にやさしいまち、緑の多いまち、学生の多いまち、地域活動が盛んなまちと云う特長が浮かんで来ます。

では、今後の社会の在り方はどうなるのか。

①ソサエティ5．0という考え方があります。狩猟社会→農耕社会→工業社会→情報社会と推移して、今は超スマート社会に。電力需要と電力供給を最適化するスマートグリッドや、スマートにエネルギーを選択するスマートコミュニティに。

②SDGs＝持続可能な17の開発目標。21世紀は経済成長よりも環境保全が最優先される。

③持続可能な社会は、経済成長、地球環境保全、エネルギー安全保障の三つの均衡が求められる。

これらを加味して、町田市のこれからは、未来づくりビジョンの検討のほか、財政、教育、働き方を考えていかなければならないでしょう」。